



# 中心市街地まちづくりビジョン「つかう中津川」 アクションプラン

**戦略・手段編** (令和6年3月)

中津川市

中心市街地まちづくりビジョン 戦略・進捗管理項目一覧

戦略										
説明	各項目についての動き始め			各項目の取り組みが表面化する時期			各項目が相互に作用する時期	各項目の目指す状態		
項目/時期	Hop期	進捗管理項目	到達	Step期	進捗管理項目	到達	Jump期			
共通	A	中心市街地まちづくりビジョンに共感し、まちなかを活用してくれる主体と協働、又はそのサポート・調査行います 【事業番号】①	進捗管理を適切に行い、戦略に基づき、手段方法を検討・修正している	—	公共空間がより使いやすくなるような検討及び環境整備を行い、つかいやすい空間を少しづつ増やしています	進捗管理を適切に行い、戦略に基づき手段方法を検討・修正している	—	※JUMP期の進捗管理項目は5年後を目途に策定		
	こども	B	都市緑地公園を手始めに、使いやすくなるためルールや申請などを定め、使ってもらえるようにPRを行っています。また都市緑地公園以外の活用可能性も実証実験等を行い探っています 【事業番号】③	都市緑地等の公園を使いやすくなるための社会実験やワークショップを行い、使用のルールを定めた 都市緑地公園などの公園を、使ってもらえるようにPRしている		こどもにワクワクを提供するプレイヤー同士が交流し、繋がりを作っています	まちなかのそれぞれの空間の特性に合わせた使い方ができるよう、必要な設備の整備や改修の検討を開始した		親子に使いやすいまちなかであることを知ってもらうために、親子に向けた日常・非日常の様々な情報を発信しています まちなか全体を活用した、こどもにワクワクを提供する取り組みが行われています	まちなかを、親子で過ごしやすいワクワクできる場所にしていきます。ひと・まちテラスをはじめ、公園や広場、河川、時にはまちなか全体を使って、親子に遊びと体験の機会をつくります
		C	こどもにワクワクを提供するプレイヤーを支援するための方法を考え、実施しています 【事業番号】③	公共空間を活用しようとするプレイヤーをワンストップで支援する体制を整えた		まちなかに来る親子を増やすために、親子の居場所を見える化し、増やす取り組みをしています	こどもにワクワクを提供するプレイヤーが増えた ワクワクを提供するプレイヤーをつなげる取り組みを行っている			
		D	こどもにワクワクを提供する方法を考え実施しています 【事業番号】②	今ある資源を活用して、こどもたちがワクワクするイベント等を実施している			親子のニーズに合わせた取り組みを増やし、情報発信している			
		E	まちなかに来る親子の居場所を把握し課題をみつめています 【事業番号】①	まちなかで親子の居場所や施設の現状を把握し、利点や課題を整理できた						
学生	F	coagariは域学連携の活動拠点から、域学連携活動の入り口として、主にひとまちテラスでの情報発信や既存の取り組みへのマッチングなども行うソフト事業に発展させています 【事業番号】④	高校・大学生がまちなかで活動したいと思ったときに、学生が参加できる情報にアクセスできる仕組みがひとまちテラスを中心に確立できた 拠点としてのcoagariからソフト事業として高校・大学生の活動がまちなかに展開できた		まちなかの事業者が、学生の意見を募集する等の新規の取り組みに、学生をマッチングできるような仕組みや体制を作っています 学校や先生からの働きかけがあった際の、ワンストップ窓口が整備されています	Hop期で確立した仕組みが、行政・民間事業者に認知され、学生と地域との新しい活動が生まれた 学校の先生たちに、まちなかは学生の学びのために使える場所だと認識された		ビジョンにおける全ての取り組みに学生が参加出来るようになっており、一緒に取り組みを行っています まちなかは学生の学びの場所ということ、市内外の学生・学校・事業者・市民へ、それぞれに合わせた情報発信をしています	まちなかを、学生の学びをつくる居場所にします。まちをつかって学びを作り、学生とまちが共に成長する場所にすることで、常に新しい視点を持ち続け、変化していくことができます	
	G	学生の学びのためにまちなかをつかう学校を増やす方法や取り組みを検討しています 【事業番号】⑤	小中学校又は高等学校への情報発信や周知の方法が確立できた							
	事業を始める	H	関係各所と連携し、挑戦できる場や学びの場を提供することで事業者を育てる仕組みと体制を作っています 【事業番号】⑥	関係各所（市・商工会議所・商工会・まちづくり会社）が連携し、事業者を育てる仕組みや体制ができた		事業者を育てる仕組みと体制が定着し、まちなかの創業希望者を増やしています 創業支援メニューが定着し、事業者を育てる仕組みへの導線を作っています	まちなかの創業希望者（創業相談者）が増え、実際の創業につながる件数が増えた 創業支援メニューの利用者が増えた		事業者を育てる仕組みと体制を情報発信して、まちなかで事業を行うことのメリットを知ってもらい、利用者を増やしています	まちなかは、挑戦者を応援し育てます。使いやすいまちなかを作り、リノベーションやスタートアップ等のサポートを行うことで、皆さんのビジネスやライフスタイルにインパクトを与えます
I		創業時に必要な情報やサポートを把握し、支援メニューの見直しや創設をしています 【事業番号】⑦⑧	過去の創業者から聞き取りやアンケートを実施し創業時に必要な情報やサポートの把握ができた ニーズに沿った創業支援策が新設又は既存の内容が充実した							
J		まちなかで活用できる物件の調査をさらに進めるとともに、所有者へ貸し出しの働きかけを行っています 【事業番号】⑥	まちなかで活用できる物件情報が把握できるようになった まちなかで活用できる物件所有者に、貸し出しを働きかけられる仕組みや体制が整った				創業メニューを活用した人同士がつながるコミュニティが組織された			

中心市街地まちづくりビジョン 戦略・進捗管理項目一覧

戦略								
説明	各項目についての動き始め			各項目の取り組みが表面化する時期			各項目が相互に作用する時期	各項目の目指す状態
項目/時期	Hop期	進捗管理項目	到達	Step期	進捗管理項目	到達	Jump期	
中山道	K 先人たちが培ってきた風景、歴史、文化に見合った資源の活用や維持、歴史的建造物の活用ができる取り組みをしています 【事業番号】⑨⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的な建造物に対して活用の可能性や規制緩和に向けた検討を行う場ができた</li> <li>中山道を観光活用するための課題や必要なデータを収集し、現状を把握することができた</li> <li>実際の歴史・風景に見合った活動を実施した</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源になり得る中山道資源をピックアップして、ストーリーを活用した企画を実施し、観光資源を増やしています</li> <li>まちなかの歴史や文化を様々な人が理解し、これらに誇りを持ってもらえるような取り組みを行っています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まち歩きイベントやまちなかの資源を周遊する様々な企画が行われている</li> <li>収集したデータ等を踏まえて、中山道を観光活用している</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>観光活用できるようになった中山道で、観光客を対象とした事業を営む方々が、サポートなどを受けながらリノベーション等を行い事業を開始しています</li> <li>まちなかの歴史や文化に誇りを持ち、それによる新しい取り組みが生まれています</li> </ul>	先人たちが使ってきたまちなかを、時代に合わせて使うことで磨きあげます。中山道沿いにある歴史・文化・街並みを使って、ここにしかないモノを受け継ぎ、次に繋げていきます
	L 歴史文化についてまとめられたものを、触れやすく親しみやすいものにすることで、多くの人に知ってもらえるようにしています 【事業番号】⑩⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰にでもわかるストーリーとして歴史文化をまとめ、中津川ならではの魅力と守るべき要素を把握した</li> </ul>						
歩く	M 六新市や、まちなかポケットパーク等の空間で、イベントや日常の風景から、こども、高齢者、障がい者なども含めたあらゆる方がどのようにまちを歩いて使っているのかを観察しています 【事業番号】①⑪⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常及びイベント開催時において、どのように人が動いているかの現状を把握できた</li> <li>アンケート調査により、まちなかを楽しく歩くためのニーズの把握ができた</li> <li>歩きやすいまちなかの実現に向け、案内などの基礎的な整備ガイドラインを作成した</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一体的な歩道整備の計画を、ほかの事業の実証実験や事業者から得たデータを活用しながら検討を行っています</li> <li>部分的にまちなかに滞在できるような設備等を整備しています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩きやすいまちなかの実現に向けた検討委員会を発足した</li> <li>歩きやすいまちなかの実現のため、歩道などの整備計画の検討を部分的に開始した</li> <li>適宜滞在を考えて、必要な場所に必要設備の整備を部分的に実施した</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなかの道路や交通、歩道や統一された表示（サイン）の整備を部分的に行い、中津川市の風景や物語を点在・表現しています</li> <li>1階部分がオープンテラスになっている等の、歩くことが楽しくなるようなお店を増やす取り組みをしています</li> </ul>	まちなかを、歩きやすく住みやすくします。居住や観光において、歩きやすいまちにすることでたくさんの人を集めます。人が集まることでそこに新たな楽しみがまた生まれます
	N にぎわいプラザ後活用を含め、駅前が今後どうあるべきかを検討するための組織を発足しています 【事業番号】⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>サウンディング調査を実施し、にぎわいプラザの用途廃止後の活用方法について広く意見を聴き、方向性の選択肢を絞り込んだ</li> <li>にぎわいプラザの用途廃止後の活用方法を検討する組織が発足した</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなかへの導線となる表示等を検討し、おもてなしのできる駅前整備内容について検討しています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前とまちなかを結ぶ導線確保と表示方法を検討する組織が発足した</li> <li>（にぎわいプラザ後活用含めた）駅前広場の整備計画の検討を開始した</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>駅を降りた方が、中津川の良さを感じてもらえるような空間にするための整備が実施され、広場の活用を含めたソフト面での企画やサービスの提供を始めています</li> <li>駅前を、観光活用できるようになった中山道への動線が分かりやすく、市内の他の地域への周遊に結び付くような場所になっています</li> </ul>	まちなかを、人が行き交う場所にします。駅前はまちにとっての玄関・ロビーのような場所です。まちの雰囲気や魅力を伝え、行き交う人に優しく、おもてなしのできる場所にします
駅前	O 駅前広場活用に向けた社会実験を行うことで環境整備や活用に関するルール設定のためのデータを収集しています 【事業番号】⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前広場を活用した社会実験を何度か実施し、その検証結果やデータを取りまとめることができた</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前広場活用のデータをもとに駅前広場の環境整備及びルール作りをしています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市緑地公園など、他の公共空間と同様に活用できるルールやワンストップの窓口が整備された</li> <li>社会実験の検証結果やアンケート調査に基づいた必要な設備が整備された</li> </ul>			
	P 駅前を訪れた方に対し駅前についての印象や機能面での調査を行うことで、駅前の現状を観察と把握しています 【事業番号】①⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実験や駅前を訪れた方に対してアンケート調査などを実施し、現状とニーズを把握できた</li> </ul>						

# 戦略・手段対応表

事業番号	手段（事業）名	つかう資源	つかう人	関連戦略項目 (P2～3アルファベット)
①	共通			A・E・M・P
②	こどもの未来をテラス ワク ワク体験事業	ひと・まちテラス	親子、各種イベント企画者	D
③	公共空間活用促進事業	まちなかの公共施設、公共空間（公園・河川敷など）	親子、各種イベント企画者	B・C
④	coagariのソフト事業強化	ひと・まちテラス、coagari、既存のソフト事業	学生	F
⑤	教員への情報発信	ひと・まちテラス、coagari	学生、教職員	G
⑥	まちなかで事業者を育てるプロジェクト	まちなか全域、既存のセミナー	事業者、創業希望者	H・J
⑦	中心市街地創業チャレンジ補助金	まちなかの空き物件	創業2年目の者	I

# 戦略・手段対応表

事業番号	手段（事業）名	つかう資源	つかう人	関連戦略項目 (P2～3アルファベット)
⑧	通りに面していない物件活用促進事業準備	まちなかの空き物件（通りに面していない）	創業希望者、事業者	H
⑨	中心市街地の統一的まちなみづくり検討	中山道沿線にある店舗や事務所	事業者	K
⑩	中山道ソフトコンテンツ事業	中山道沿線、実施中の中山道を題材とするイベント	観光客、イベント企画者、住民	K・L
⑪	統一サインプロジェクト	まちなか全域	観光客、通行者、住民、商店街	L・M
⑫	まちを歩く社会実験事業	中山道沿線	観光客、親子、住民、商店街、イベント企画者	M
⑬	にぎわいプラザ後活用検討事業	駅前、駅周辺	駅周辺を利用する方	N
⑭	駅前広場活用社会実験事業	駅前、駅周辺	駅周辺を利用する方、イベント企画者	O・P



# ①共通【A・E・M・P】



HOP期の戦略項目

想定予算規模  
0円



誰が？（実施主体）：商業振興課

なんのために？（目的）

必要に応じた調査や、中心市街地まちづくりビジョンに共感いただいた民間の活用主体との協働・サポートを行い、ビジョンの実現を官民連携で行う。

どんなことを？（事業内容）

中心市街地まちづくりビジョンでの取り組みを情報共有し、共感いただいた民間からの提案や計画に対し、取り組みや事業の協働やそのサポートを実施できる窓口と体制を作る。

- 歴史的な建築物の活用についてのアドバイスや検討サポート
- 周辺環境整備（合意形成等）補助金等の活用提案
- 各種調査のサポートなど、ビジョンに沿う形での事業実施のサポート



どんな風に？（1年間の具体的な進め方）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
随時受付・検討・サポート											

## ①共通【A・E・M・P】

誰が？（実施主体）：商業振興課

なんのために？（目的）

必要に応じた調査や、中心市街地まちづくりビジョンに共感いただいた民間の活用主体との協働・サポートを行い、ビジョンの実現を官民連携で行う。

何を目標に？（KPI）

- ① 中心市街地まちづくりビジョンに関するアンケート調査 1回

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

中心市街地まちづくりビジョンに沿った形で、継続的に実施されている。  
行政主導でビジョンの実施サポートを行いながら、Jump期に向けて民間との協働・サポートへと事業が変化している。



前ページの再掲





## ②こどもの未来をテラス ワクワク体験事業【D】 想定予算規模 3,000,000円

誰が？（実施主体）：ひと・まちテラス

### なんのために？（目的）

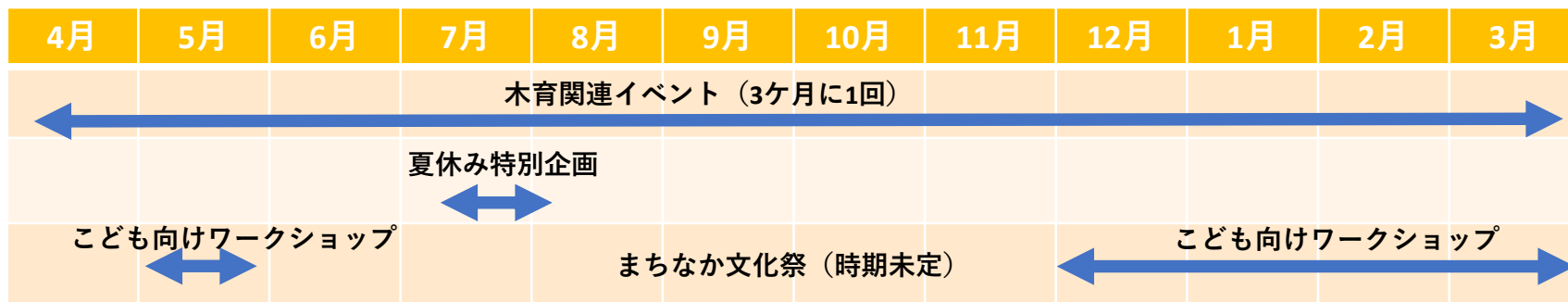
こども（未就学児・小学生・中学生）に幅広い体験の場を提供し、こどもがワクワクする機会を設けることで、にぎわいやまちなかへの愛着を形成する。

### どんなことを？（事業内容）

- こども向け体験ワークショップを中心に、木育に関連するイベント、夏休み特別企画（縁日、ひと・まちテラス特別宿泊体験等を予定）、まちなか文化祭等、年間通して未就学児・小学生・中学生をそれぞれターゲットにしたイベントを実施し、ひと・まちテラス及びまちなかへ足を運ぶ機会を創出する。
- プレイヤーイベント等でのひと・まちテラスの活用を働きかける。



### どんな風に？（1年間の具体的な進め方）







## ②こどもの未来をテラス ワクワク体験事業【D】

誰が？（実施主体）：ひと・まちテラス

なんのために？（目的）

こども（未就学児・小学生・中学生）に幅広い体験の場を提供し、こどもがワクワクする機会を設けることで、にぎわいやまちなかへの愛着を形成する。

何を目標に？（KPI）

- |                        |        |
|------------------------|--------|
| ①ひと・まちテラス来館者数          | 45万人/年 |
| ②こども向けワークショップ等の開催回数    | 12回/年  |
| ③プレイヤーによるこども向けイベント等の開催 | 2回/年   |

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

ワークショップ等のイベントが開催されたことで、ひと・まちテラスやまちなかに足を運ぶファミリー層が増え、まちなかには楽しいことや刺激的なことがあるといったイメージが定着し、愛着が形成され始める。さらに、プレイヤーとのつながりができ、こどもがワクワクするイベント等の開催回数が増えている。



### ③公共空間活用促進事業【B・C】

想定予算規模  
2,000,000円  
(⑭と共通)

誰が？（実施主体）：都市住宅課・民間事業者

なんのために？（目的）

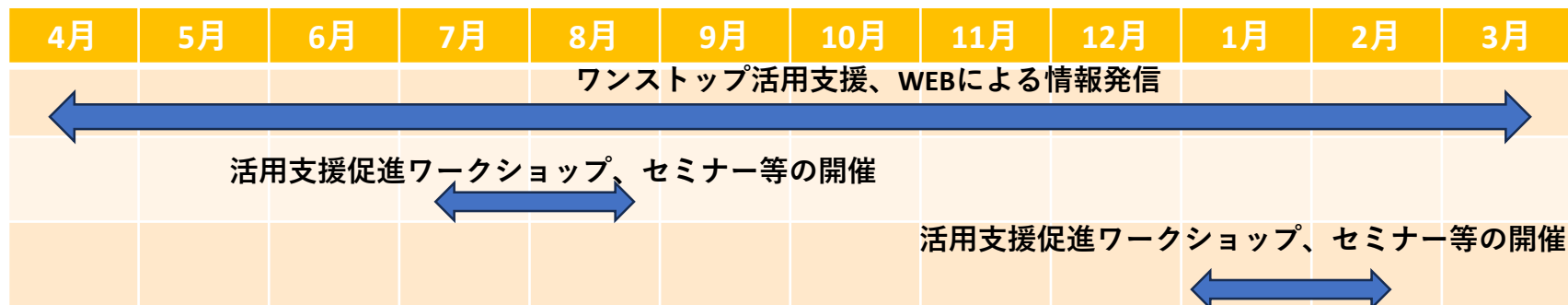
まちなかで行なわれるイベントやこどものワクワク企画など民間活動を促進するとともに、プレイヤーの発掘・育成等を行う。

どんなことを？（事業内容）

- 公共空間活用を一括でサポートするワンストップ窓口の設置
- 軽微な備品等の貸出サポート
- イベントPR・HP等による周知支援
- その他企画相談、マッチング支援、事業PR
- 活用促進ワークショップ、セミナー等の開催 など



どんな風に？（1年間の具体的な進め方）





### ③公共空間活用事業【B・C】

誰が？（実施主体）：都市住宅課・民間事業者

なんのために？（目的）

まちなかで行なわれるイベントやこどものワクワク企画など民間活動を促進するとともに、プレイヤーの発掘・育成等を行なう。

何を目標に？（KPI）

- ①プレイヤーの発掘 現在6 ⇒ 目標18団体（R6～R8の3年間で段階的に増加）
- ②セミナー、ワークショップ等の開催 2回/年
- ③公式Instagramアカウントフォロワー 300人/年

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

様々な団体によって公共空間を活用したイベントや子ども向け企画が毎週のように行われている。子ども向け企画によってこどものワクワクを実現しつつ、まちなかにファミリー層を呼び込むきっかけになっている。

各公共空間の利活用が進むことで、日常的な利用頻度も高まり、公園整備に向けたニーズや投資効果が高まっている。

## ④coagariのソフト事業強化【F】



誰が？（実施主体）：市民協働課、委託事業受託者

### なんのために？（目的）

本町にある域学連携の拠点施設「coagari」で行う「地域の方と交流しながら学ぶ学生の活動『coagariの活動』」を、まちなか全体にさらに広げることで、学生がまちなかをつかって学ぶ姿を増やし、にぎわいにつなげる。活動する中で学生がまちなかについて考え、その魅力を知り、地元愛を持ってもらうことで、将来まちなかに帰ってきて活躍する人材の育成・発掘につながる種まきをしていく。

### どんなことを？（事業内容）

- まちの人、物、こと等について学ぶ学習会やまちの方との交流会をひと・まちテラスで開催する。
- 地域と関わってより探求的な活動をする学生チームをコーディネートします。また、学生と活動したい民間主導の取組みと学生をつなぎ、学生をアテンドする。
- 学生と上記のような「coagariの活動」とをつなぐプラットフォームを構築・運用し、学生のためのワンストップ窓口とする。

### どんな風に？（1年間の具体的な進め方）

4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォームの構築										
		周知								
								プラットフォームを活用した情報発信		
										学習会の開催、学生活動のコーディネート

## ④coagariのソフト事業強化【F】



誰が？（実施主体）：市民協働課、委託事業受託者

なんのために？（目的）

本町にある域学連携の拠点施設「coagari」で行う「地域の方と交流しながら学ぶ学生の活動『coagariの活動』」を、まちなか全体にさらに広げることで、学生がまちなかをつかって学ぶ姿を増やし、にぎわいにつなげる。活動する中で学生がまちなかについて考え、その魅力を知り、地元愛を持ってもらうことで、将来まちなかに帰ってきて活躍する人材の育成・発掘につながる種まきをしていく。

何を目標に？（KPI）

- ①coagariやひと・まちテラスを活用した学習会・交流会 10回/年
- ②まちなかで活動をコーディネートする学生チームの数 2チーム/年
- ③公式LINE登録者数 150人/年
- ④まちなかで①②の活動に参加した学生 延べ250人/年

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

プラットフォームが運用され、情報が学生に届いている。プラットフォームを通じてまちなかで活動する学生が増えている。

地域や事業者がプラットフォームを積極的に活用してもらえるように周知され、民間主導の活動が増えている。

地域と学生をつなぐワンストップ窓口、事業者・市民がまちなかで行われている学生の活動を知ることができる情報発信ツールとして、プラットフォームが活用されている。

## ⑤教員への情報発信【G】



誰が？（実施主体）：中津川市（市民協働課）

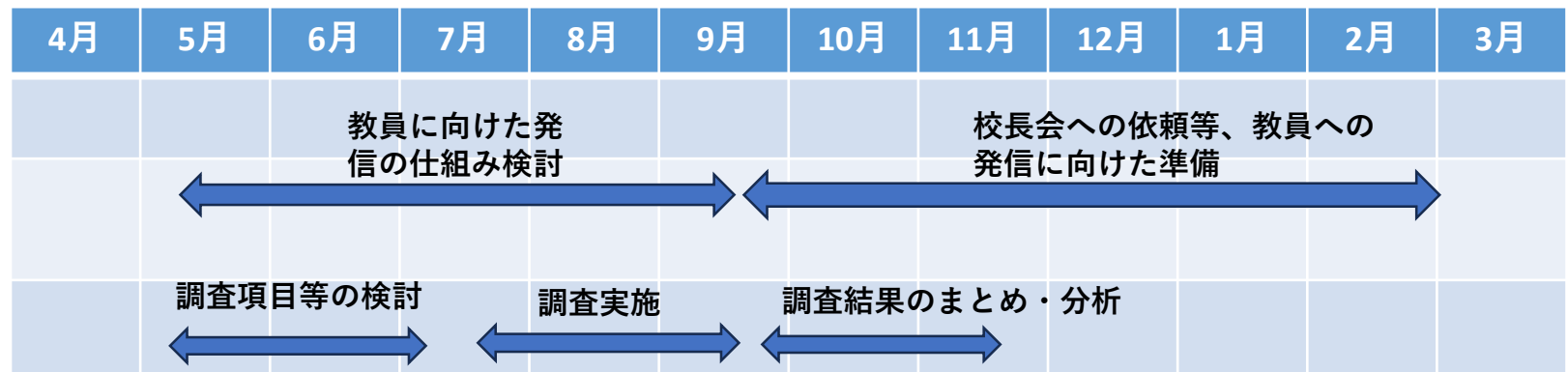
なんのために？（目的）

学校の授業としてまちなかを取り上げる教員を増やし、小中高大までのすべてのカテゴリの学生がまちなかをつかう環境を整える。

どんなことを？（事業内容）

- まちなかで授業に取り上げることができそうなテーマや過去の事例等について、教員に向けて発信する仕組みを検討する。
- まちなかの小中学校を中心に、ふるさと学習として行われている授業について状況を把握するとともに、教員に向けて発信する情報の種類について検討する。

どんな風に？（1年間の具体的な進め方）







## ⑤教員への情報発信【G】

誰が？（実施主体）：中津川市（市民協働課）

なんのために？（目的）

学校の授業としてまちなかを取り上げる教員を増やし、小中高大までのすべての学生がまちなかをつかう環境を整える。

何を目標に？（KPI）

- ①まちなかを使った授業内容や回数等を把握する調査 1回/年
- ②各学校の教員への情報共有や教員からの相談を受けるワンストップ窓口の仕組みを構築
- ③教員に向けた情報発信 1回/年

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

まちなかに近い学校の学校長、教頭、学年主任等が中心市街地まちづくりビジョンにおいて「学生の学びのためにつかう」が柱の1つとして取り組まれていることを把握され、まちなかをテーマとするふるさと学習の過去事例等の情報が毎年各学校に届いている。

学校が地域をつなぐワンストップ窓口や、学校教員・事業者・市民の方等がまちなかで行われている学生の活動を知ることができる情報発信ツールとして、プラットフォームが活用されている。



## ⑥まちなかで事業者を育てるプロジェクト【H・J】

想定予算規模  
0円

**誰が？（実施主体）**：商業振興課・商工会議所・北商工会・まちづくり会社

**なんのために？（目的）**

中津川市と商工会議所・北商工会が共同で、まちなかで新たに事業を始めようとする方、始めた方をサポートし、事業を定着させる。

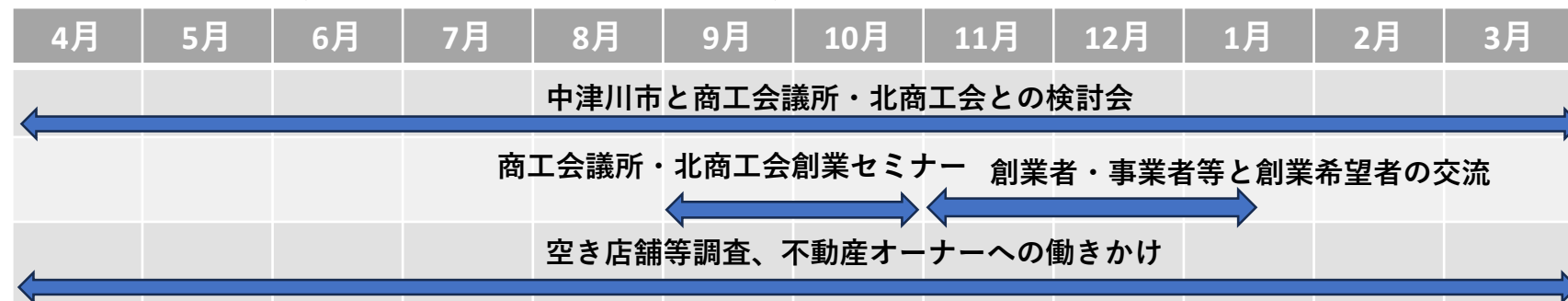
**どんなことを？（事業内容）**

まちなかで事業を始める機運を高めていくための事業を商工会議所・北商工会、まちづくり会社と協働で検討し実施していく。

- 物件所有者への貸してもらうための働きかけ
- リノベーションまちづくりを加速させるための働きかけ
- 起業するコミュニティをつくるための働きかけ
- 上記仕組みや創業後のサポートを繋ぎ・継続する



**どんな風に？（1年間の具体的な進め方）**





## ⑥まちなかで事業者を育てるプロジェクト【H・J】

**誰が？（実施主体）**：商業振興課・商工会議所・北商工会・まちづくり会社

**なんのために？（目的）**  
中津川市と商工会議所・北商工会が共同で、まちなかで新たに事業を始めようとする方、始めた方をサポートし、事業を定着させる

**何を目標に？（KPI）**

- ①商工会議所・北商工会の創業セミナーを受講し、まちなかで事業をはじめた事業者の数 4件/年
- ②まちなかで事業を始めた方と事業を始めようとする方の交流会の開催 1回

**終わった後は？（事業完了後のイメージ）**

創業セミナー、創業計画策定指導、補助金活用、アフターフォロー、交流会の開催は継続的に実施されている。また、創業者や既存の事業者から事業継続や経営に関するセミナーの開催要望があった場合は、随時実施されている。

創業者同士の交流会は、将来自主的に活動できるコミュニティに発展させられるような機運が醸成され始めている。



## ⑦ 中心市街地創業チャレンジ補助金

想定予算規模  
0円※補正対応検討

誰が？（実施主体）：商業振興課

なんのために？（目的）

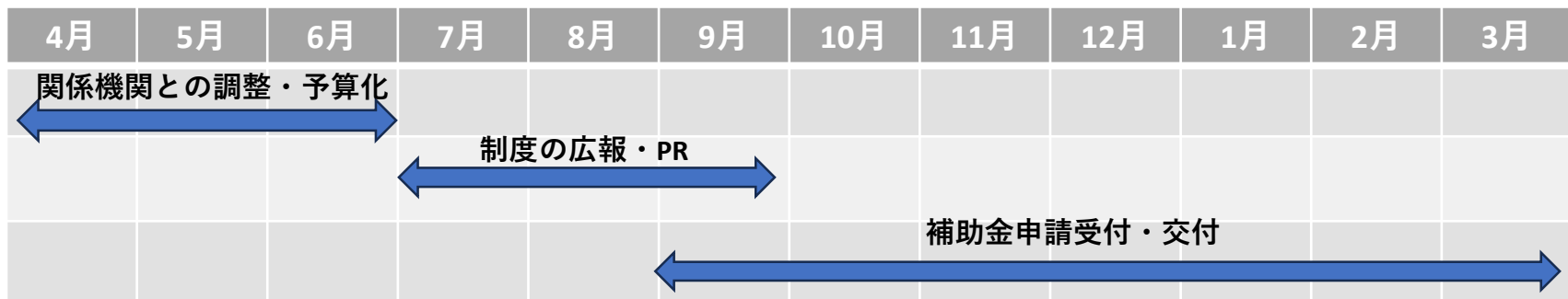
まちなかで事業を始めようとする方を支援し、事業を定着させる。  
まちなかに、今までにない新しいコンテンツを増やす。

どんなことを？（事業内容）

- まちなかで、前年度中に新規に創業を行った方（創業して2年目の方）を対象に、販売促進（宣伝広告）や販路拡大に特化した補助金制度を創設する。
- 中津川商工会議所または中津川北商工会に、販売促進にかかる講習を受けたうえで、申請書に販売戦略詳細を記載し、認められた方に対して、その費用の一部補助し、事業の定着を支援する。



どんな風に？（1年間の具体的な進め方）





## ⑦中心市街地創業チャレンジ補助金 Ⅱ

誰が？（実施主体）：商業振興課

なんのために？（目的）

まちなかで事業を始めようとする方を支援し、事業を定着させる。  
まちなかに、今までにない新しいコンテンツを増やす。

何を目標に？（KPI）

- ①この補助金を受給した事業者数：4件/年
- ②この補助金を受給した事業者が、その後2年以内に撤退しない

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

この補助金を受給した事業者へ聞き取り調査を実施し、より事業の定着に結びつけられるように改良を加え、創業の後押しとなっている。



## ⑧通りに面していない物件活用促進事業準備【H】

想定予算規模  
0円

**誰が？（実施主体）：商業振興課・まちづくり会社**

**なんのために？（目的）**

通りに面していない空き物件の活用を促進させ、空き店舗の解消を図る。  
新しいコンテンツを誘致し、エリアの価値を高める。

**どんなことを？（事業内容）**

- 比較的活用がされにくい通りに面していない物件に対して、シェアオフィス、サテライトオフィス、ゲストハウス、シェアハウスなど、ビジョンと親和性の高い事業に活用してもらえるよう、不動産オーナーへの働きかけや活用しやすくする制度の検討を行う。



**どんな風に？（1年間の具体的な進め方）**







## ⑧通りに面していない物件活用促進事業準備【H】

誰が？（実施主体）：商業振興課・まちづくり会社

なんのために？（目的）

通りに面していない空き物件の活用を促進させ、空き店舗の解消を図る。  
新しいコンテンツを誘致し、エリアの価値を高める。

何を目標に？（KPI）

令和6年度中に、活用方針と活用しやすい制度を構築する。

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

令和8年度までに制度を開始し、以降は効果検証を行いながら、支援内容のブラッシュアップが行われる。

ビジョンと親和性の高い新たなコンテンツがまちなかに誘致され始める。



## ⑨中心市街地の統一的まちなみづくり検討【K】

想定予算規模  
0千円

誰が？（実施主体）：商業振興課・都市住宅課

なんのために？（目的）

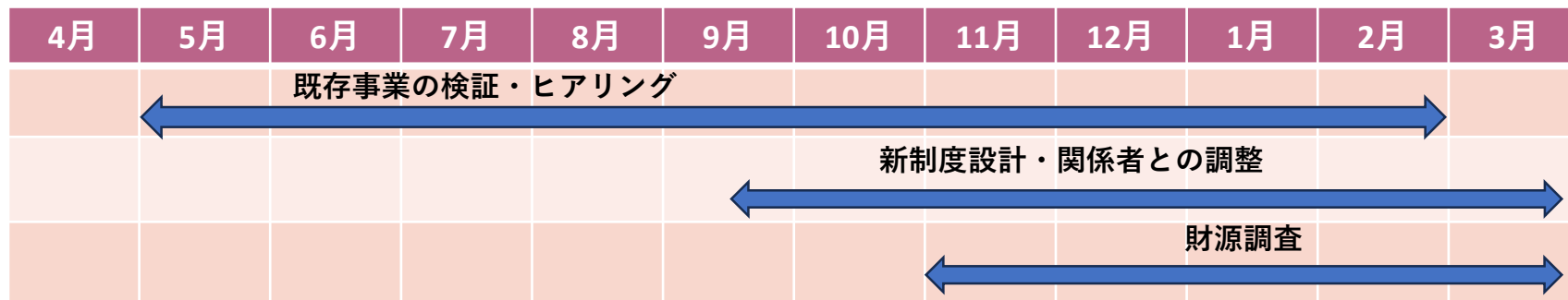
統一された街並みや通りを形成することで、エリアの価値を高める。  
街道文化を現代に伝える街並みを保全し、中津川らしさを醸し出す。

どんなことを？（事業内容）

- まちなかの街並み形成に向け、既存事業の検証やヒアリングを進め、統一的なまちなみや通り形成に向けた事業等を検討する。
- 中山道沿線など、街並み形成に寄与している既存物件等についてはリノベーション支援などを行ない、中山道の街並みの保全に取り組む。



どんな風に？（1年間の具体的な進め方）





## ⑨中心市街地の統一的まちなみづくり検討【K】

誰が？（実施主体）：商業振興課・都市住宅課

なんのために？（目的）

統一された街並みや通りを形成することで、エリアの価値を高める。  
街道文化を現代に伝える街並みを保全し、中津川らしさを醸し出す。

何を目標に？（KPI）

取組みの方針をまとめ、実施に向けた準備を行う。

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

街並み形成の機運が高まり、街並みが少しずつ街道文化を現代に伝えるものへと変化し始める。  
地域から景観条例の設定又はそれに準ずる要望が出された場合は、内容をさらに充実させ、官民が連携した街並み保全が図られている。



## ⑩中山道ソフトコンテンツ事業【K・L】

想定予算規模  
0円

誰が？（実施主体）：観光課・商業振興課・文化振興課

なんのために？（目的）

私たちの中山道について、深く知り、誇りに思ってもらおう。  
訪れた方々に、まちの自己紹介ができるようになってもらう。

どんなことを？（事業内容）

中山道に関するデータやストーリーを収集し、それらの文献をより分かりやすい形で提供できるように編集し、まとめる。  
まとめられたデータやストーリーを活用した企画等を実施する。

<活用予定の企画等>

- まち歩きや統一サイン
- ガイド育成
- 市民向けのシビックプライドの醸成（小学校の授業等）



どんな風に？（1年間の具体的な進め方）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
データの収集と提供しやすい形にまとめる編集作業											
						企画の実施					



## ⑩中山道ソフトコンテンツ事業【K・L】

誰が？（実施主体）：観光課・商業振興課・文化振興課

なんのために？（目的）

私たちの中山道について、深く知り、誇りに思ってもらおう。  
訪れた方々に、まちの自己紹介ができるようになってもらう。

何を目標に？（KPI）

- ①場所やストーリーについて提供しやすいものにまとめる 5件
- ②まとめたデータを活用する企画の実施 2回

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

編集したデータが、ガイド育成向けの教本やシビックプライドを醸成するための市民向けの冊子等に活用されている。

統一サイン等にQRコードを張り付けるなど、広くガイドができる仕組みの検討が始まる。



## ⑪統一サインプロジェクト【L・M】

想定予算規模  
0円

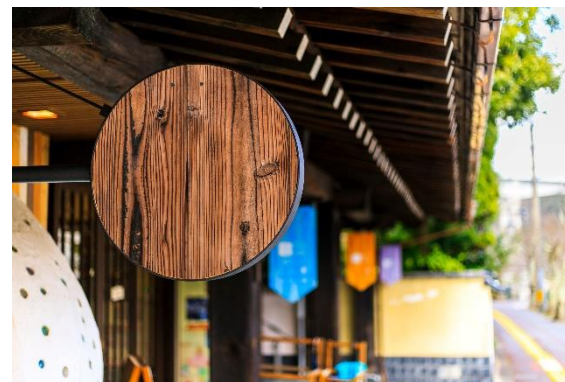
**誰が？（実施主体）**：商業振興課・管理課・観光課・都市住宅課・文化振興課

### なんのために？（目的）

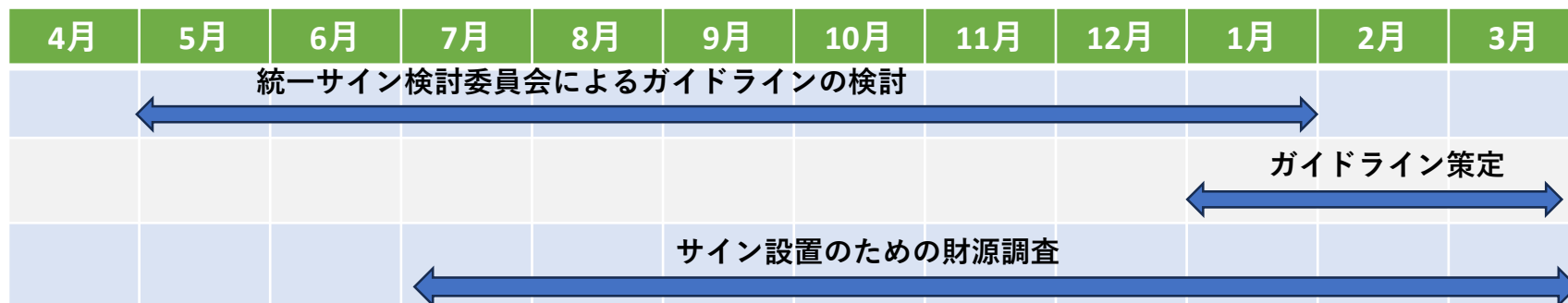
国内外のまちなかの来訪者が、まちの雰囲気にあったサインを見て、まちなかの施設や見どころなどの目的地を、歩いて円滑に誘導や回遊をできるようにする。

### どんなことを？（事業内容）

- まちなかの来訪者を受け入れる基盤として、わかりやすいサインの整備をするためのガイドラインを策定する。
- ガイドラインに沿って、まちなかの来訪者の立場に立った統一したデザインのわかりやすいサインを設置し、歩いてまちなかの様々な魅力に直接触れてもらう。



### どんな風に？（1年間の具体的な進め方）







## ⑪統一サインプロジェクト【L・M】

誰が？（実施主体）：商業振興課・管理課・観光課・都市住宅課・文化振興課

### なんのために？（目的）

国内外のまちなかの来訪者が、街の雰囲気にあったサインを見て、まちなかの施設や見どころなどの目的地を、歩いて円滑に誘導、回遊できるようにする。

### 何を目標に？（KPI）

①統一サイン設置に関するガイドラインの完成させる

### 終わった後は？（事業完了後のイメージ）

策定したガイドラインに沿ったサイン設置に向け、デザイン設計、設置する場所の選定、事業計画の策定などのサイン設置に向けた具体的な検討が始まっている。



## ⑫まちを歩く社会実験事業【M】

想定予算規模  
0円

**誰が？（実施主体）**：商業振興課・管理課・都市住宅課・観光課・観光協会

### なんのために？（目的）

楽しくまちを歩くためにはどのようなしたらよいかを考えるため、実践を通してデータの収集や人の動きの変化を確認し、今後の事業の仮説を立てる。

### どんなことを？（事業内容）

- 六斎市などで実施している歩行者天国をイベントの日だけでなく日常的に実施したらどうなるかを社会実験の中で部分的なエリアで実施し、商店街、歩行者、車等の往来や変化を確認・データ収集する。
- 歩行者天国となった場所での企画実施等も広く公募し、まちをつかった民間のユニークな取り組みを実施・サポートする。



### どんな風に？（1年間の具体的な進め方）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関係する組織等への相談				収集したデータの分析・次年度の計画							
←				社会実験・歩行者天国の実施				←			
				データの収集・歩行者天国内での企画募集・サポート							
→				←				→			



## ⑫まちを歩く社会実験事業【M】

誰が？（実施主体）：商業振興課・管理課・都市住宅課・観光課・観光協会

### なんのために？（目的）

楽しくまちを歩くためにはどのようなしたらよいかを考えるため、実践を通してデータの収集や人の動きの変化を確認し、今後の事業の仮説を立てる。

### 何を目標に？（KPI）

- ① 歩行者天国の実施回数 1回
- ② 歩行者天国を実施している際の事業者サポート 3件

### 終わった後は？（事業完了後のイメージ）

収集したデータをもとに、歩行者天国の継続的な開催に向けた検討が始まる。  
さらに歩いて楽しいまちとなるよう、民間事業者がこの歩行者天国を活用して行うイベント等が、自主的に計画がされている。





## ⑬にぎわいプラザ後活用検討事業【N】

誰が？（実施主体）：商業振興課・検討委員会（官民連携）

なんのために？（目的）

にぎわいプラザの用途廃止後、中津川駅前を、中津川の玄関・ロビーとして、おもてなしができるように変えるための検討を行う。

何を目標に？（KPI）

- ①令和6年度ににぎわいプラザの方向性を決定する。
- ②用途廃止までの計画（スケジュール）をまとめる。

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

令和7年度は、用途廃止に向けた準備期間とし、必要な手続き等が行われている。  
令和8年度ににぎわいプラザの用途廃止をし、後活用に向けた事業が着手されている。  
駅前広場を含めて検討が必要となった場合は、これらのことと並行して検討が行われている。



## ⑭ 駅前広場活用社会実験事業 【O・P】

誰が？（実施主体）：都市住宅課・商業振興課・民間事業者

なんのために？（目的）

駅前広場を活用しやすい公共空間に変え、駅前を訪れた方に対し、おもてなしができる空間に変えていく。

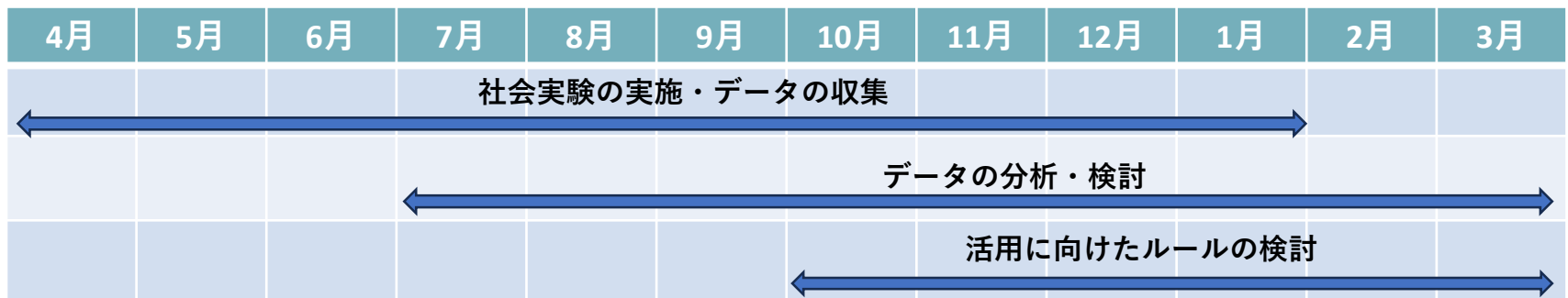


どんなことを？（事業内容）

- 駅前広場では、すでにキッチンカー販売等の社会実験に取り組んできている。これらを継続・改良しながら、民間事業者が自主的に活用できるルールや窓口の設定、必要な設備の設置が行えるようデータ収集するための社会実験を引き続き行う。
- 駅前を訪れた方に対し、駅前の印象や必要なものについて調査を行い、ニーズを把握し今後の整備検討の基礎データとする。



どんな風に？（1年間の具体的な進め方）







## ⑭駅前広場活用社会実験事業【O・P】

誰が？（実施主体）：都市住宅課・商業振興課・民間事業者

なんのために？（目的）

駅前広場を活用しやすい公共空間に変え、駅前を訪れた方に対し、おもてなしができる空間に変えていく。

何を目標に？（KPI）

- ①社会実験の参加事業者数の増加（10事業者以上/年）
- ②都市緑地公園の活用と同様に、自主的に活用できるルールの設定が完了

終わった後は？（事業完了後のイメージ）

民間主導の活用に向けた担い手団体や窓口設置の検討が行われ、都市緑地公園や他の公共空間と同様に活用がされている。

にぎわいプラザの後活用の検討内容によっては、駅前広場の活用と合わせた検討が行われている。